

令和4年度 維持管理部会 における審議事項に関するご報告

令和5年1月16日 開催

○平成30年度に維持管理部会を設置して以降、喫緊の課題であった災害対応や維持修繕の入札・契約等の課題への対応について検討。災害発生時の入札・契約等における対応のマニュアル化や、新たな入札・契約方式の試行を各地方整備局等で実施。

⇒以前に比べ、災害対応等に伴う指名競争入札の適用が増加し、災害対応の手続きが迅速化。

⇒維持修繕工事の応札・落札傾向は、大きな変化は見られない状況。

- ・維持工事は、「一者応札」が多いが、「不調不落」は比較的少ない状況。
- ・修繕工事は、「一者応札」は比較的少ないものの、「不調不落」が比較的多い状況。



○維持修繕工事の特異性を踏まえた対応が必要ではないか。

- ・維持工事は、現状で応札者が少ないことを踏まえ、企業が中長期的な投資(若手採用・資機材保有・新技術活用など)ができるよう契約期間の長期化等や、規模が小さくても地域精通度が高い企業間の連携等の促進が必要ではないか。
- ・修繕工事は、「不調不落」対策としての効果が高い発注方式(フレームワーク方式等)の取組の拡大が必要ではないか。

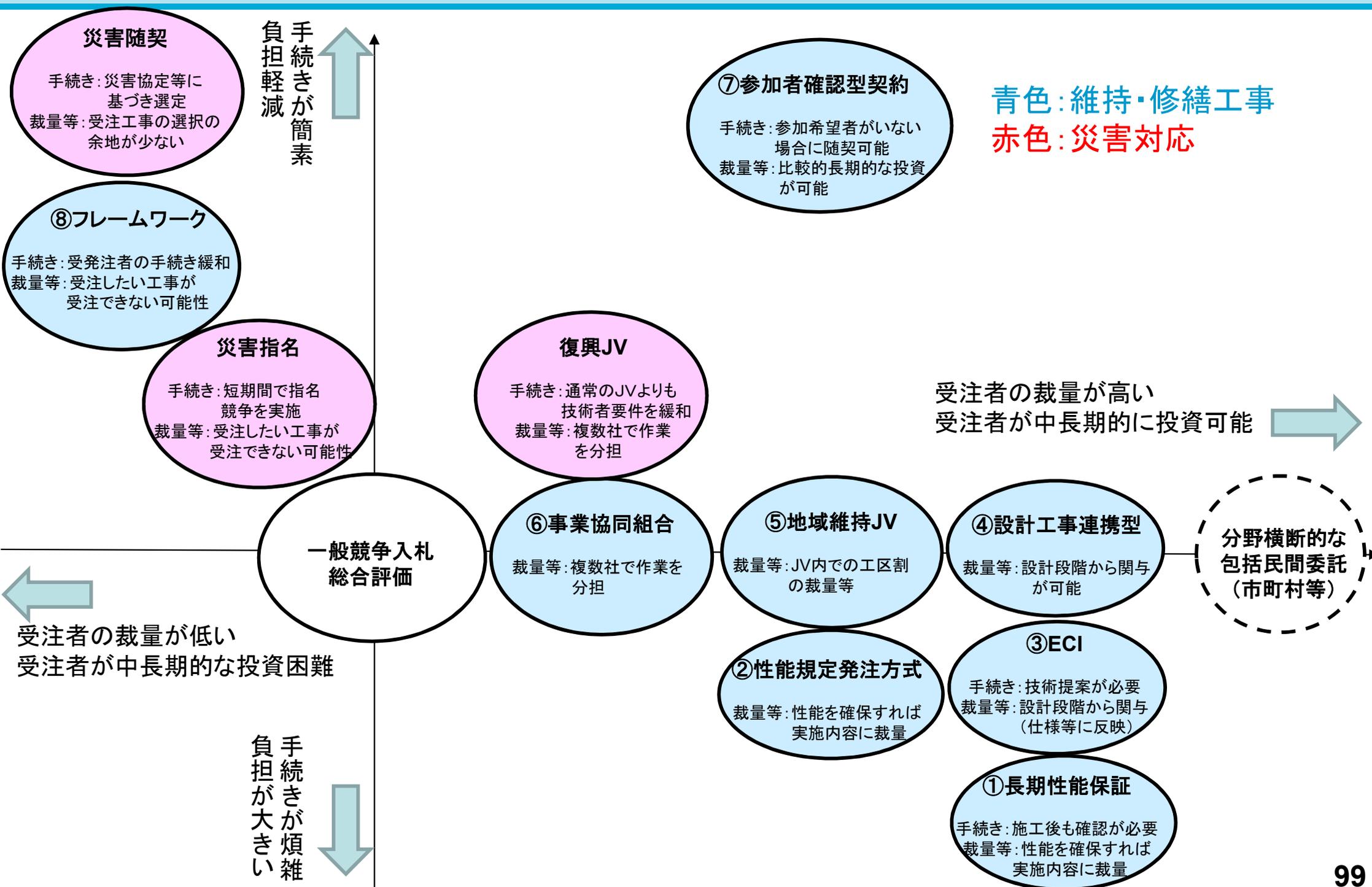
※災害対応については、ガイドラインに基づく対応を原則としつつ、事例編に災害時の対応結果を蓄積

○長期にわたり継続し、地域・現場条件への精通が求められる維持管理の特性を踏まえた建設生産・管理システムの循環の改善が必要ではないか。

国土交通省直轄の維持修繕工事の現状と将来像(案)

区分		現状	将来に向け、検討・試行すべき姿
発注	期間	単年度、又は、複数年度	複数年度の拡大(長期化を指向)
	方式	一般競争入札・総合評価落札方式(契約毎)が中心	工事特性に応じて指名競争入札(フレームワーク)等の活用拡大
受注体制		企業単体が基本	企業グループ(フレームワーク、事業協同組合・地域維持JV等)の拡大
品質確保		<p>多数の競争参加を前提に、契約毎に技術と価格による競争(多者での競争が品質、価格面で有利な調達ができるとの考え方)</p> <p>⇒維持工事で1者応札が頻発</p>	複数年度契約の拡大等により、企業が中長期的な投資(若手採用・資機材保有・新技術活用等)ができる方式を検討
担い手確保 生産性向上		中長期的に受注が見通せない場合は新たな投資(若手採用、資機材保有・新技術活用等)が困難	
不調不落		修繕工事で不調不落が多い	不調不落が少ない方式(フレームワーク方式等)の拡大・改善

維持管理における入札契約方式の特性(イメージ)



頂いた主なご意見

【全般に関して】

- ・維持工事と修繕工事では、中身や求められる技術レベルや傾向が大きく異なる。維持工事と修繕工事を分けて分析すべきではないか。
- ・維持管理を含めた建設生産・管理システムの大循環についても議論する必要がある。
- ・維持工事と修繕工事を様々な特性(工事の場所に対する依存性、特殊性、専門性、定常性等)で分類し、それに対応した入札契約方式を検討する必要がある。
- ・契約期間の長期化と、修繕工事の積算の改善を検討する必要がある。

【入札契約方式に関して】

<長期性能保証制度>

- ・性能の評価を行う際は、評価項目が特定の内容に偏らないよう注意が必要。
- ・受注者がリスクを負い続けることに対して積算の改善を検討する必要がある。

<性能規定発注方式>

- ・性能に基づいて積算する方法を検討する必要がある。

<設計工事連携型>

- ・修繕が必要になった原因の中に、地質リスクの要素が含まれる場合は、設計・工事に地質調査も加えることを検討する必要がある。